

平成23年度における契約状況のフォローアップ

平成24年8月
独立行政法人産業技術総合研究所

1. 平成20年度と平成23年度に締結した契約の状況

(単位：件、億円)

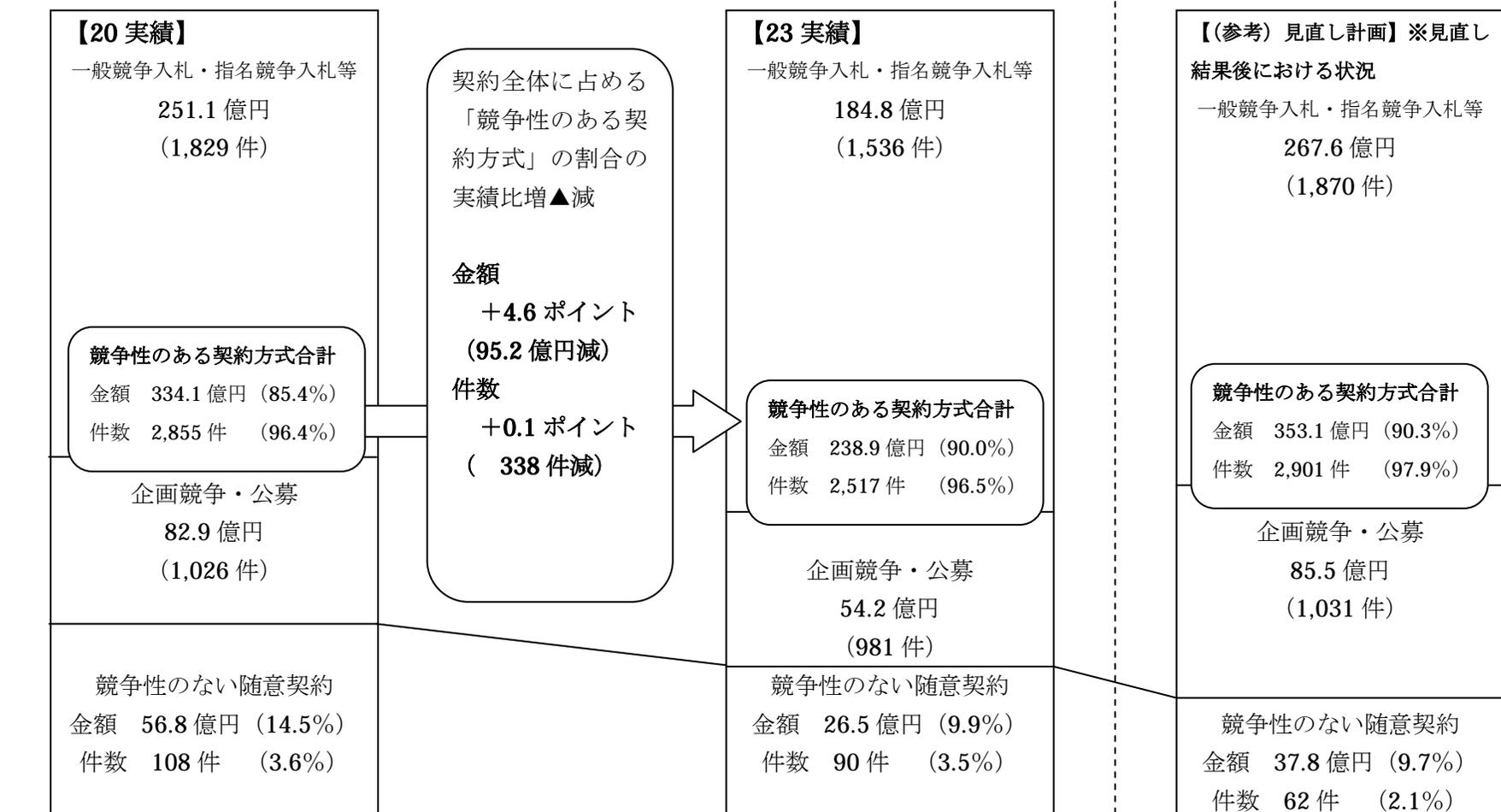
	平成20年度		平成23年度		比較増△減		見直し計画	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
競争入札等	(61.7%) 1,829	(64.2%) 251.1	(58.9%) 1,536	(69.6%) 184.8	(△16.0%) △293	(△26.4%) △66.3	(63.1%) 1,870	(68.5%) 267.6
企画競争・公募	(34.6%) 1,026	(21.2%) 82.9	(37.6%) 981	(20.4%) 54.2	(△4.4%) △45	(△34.6%) △28.7	(34.8%) 1,031	(21.9%) 85.5
競争性のある契約(小計)	(96.4%) 2,855	(85.4%) 334.1	(96.5%) 2,517	(90.0%) 238.9	(△11.8%) △338	(△28.5%) △95.2	(97.9%) 2,901	(90.3%) 353.1
競争性のない 随意契約	(3.6%) 108	(14.5%) 56.8	(3.5%) 90	(9.9%) 26.5	(△16.7%) △18	(△53.3%) △30.3	(2.1%) 62	(9.7%) 37.8
合計	(100%) 2,963	(100%) 390.9	(100%) 2,607	(100%) 265.5	(△12.0%) △356	(△32.1%) △125.4	(100%) 2,963	(100%) 390.9

(注1) 計数は、それぞれ四捨五入しているため、合計において一致しない場合がある。

(注2) 比較増△減の()書きは、平成23年度の対20年度伸率である。

(注3) 見直し計画の計数等は、「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて(平成21年11月17日閣議決定)」に基づき公表した見直し計画である。

(参考) 図表 平成20年度と平成23年度に締結した契約の状況



(注) 「一般競争入札・指名競争入札等」には、不落・不調の随意契約を含む。

2. 見直し計画に掲げた競争性のない随意契約の割合に到達しなかった主な理由

平成23年度における競争性のない随意契約の割合は、金額ベースで9.9%、件数ベースで3.5%であり、見直し計画（金額ベース9.7%、件数ベースで2.1%）を上回る結果となった。

これは、東日本大震災によって被害を受けた建物及び配管の補修など、緊急を要する工事が発生したため、結果として競争性のない随意契約の件数が増加したことによるものである。

3. 平成23年度において、随意契約から一般競争入札等、企画競争、公募に移行した主な契約

① 一般競争入札へ移行

(ア) 独立行政法人産業技術総合研究所関西センターにおける電気の供給を受ける契約 3.8億円

(イ) 独立行政法人産業技術総合研究所関西センター尼崎事業所における電気の供給を受ける契約 0.6億円

② 指名競争入札へ移行

該当なし

③ 企画競争へ移行

(ア) ベンチャー支援に関する法律顧問業務 0.01億円

④ 公募へ移行

該当なし

4. 一者応札・応募の改善状況

(単位：件、億円)

		平成 20 年度	平成 23 年度	比較増△減
2 者以上	件数	598 (21.4%)	480 (19.3%)	△118 (△19.7%)
	金額	132.2 (42.4%)	94.2 (40.2%)	△38.0 (△28.7%)
1 者以下	件数	2,194 (78.6%)	2,013 (80.7%)	△181 (△8.2%)
	金額	179.1 (57.6%)	140.4 (59.8%)	△38.7 (△21.6%)
合 計	件数	2,792 (100%)	2,493 (100%)	△299 (△10.7%)
	金額	311.2 (100%)	234.6 (100%)	△76.7 (△24.6%)

(注1) 計数は、それぞれ四捨五入しているため、合計において一致しない場合がある。

(注2) 合計欄は、競争契約（一般競争、指名競争、企画競争、公募）を行った係数である。

(注3) 比較増△減の（ ）書きは、平成 23 年度の対 20 年度伸率である。

5. 一者応札、一者応募に係る改善方策 (URL <http://unit.aist.go.jp/fad/ci/chotatsu/1syaousatsu/kaizensaku.pdf>)

6. 法人と一定の関係を有する法人との契約状況

平成 23 年 7 月 1 日以降に公示・公募等を行った案件のうち、当法人の関係法人等が契約の相手方となった案件はなかった。

(注1)「独立行政法人の行う契約に係る情報の公表について」(平成 23 年 6 月 3 日内閣官房行政改革推進室長)により、平成 23 年 7 月 1 日以降に公示・公募等がされた案件のうち、独立行政法人と一定の関係を有する法人が契約の相手方となる案件については、当該法人との間の取引等の状況等を公表することとされている。

(注2) 関係法人等とは、以下の類型に該当する法人をいう。

(1) 関係法人：次の①及び②のいずれにも該当する法人

①当法人の役員経験者が再就職している、又は課長相当職以上の職の経験者が役員等として再就職している。

②総売上高又は事業収入に占める当法人との間の取引割合が3分の1以上である。

(2) 特定関連会社：「独立行政法人会計基準」及び「独立行政法人会計基準注解」第 107 に規定する会社（当法人が議決権の過半数を所有等）

(3) 関連会社：「独立行政法人会計基準」及び「独立行政法人会計基準注解」第 118 に規定する会社（当法人が議決権の 100 分の 20 以上を所有等）

(4) 関連公益法人等：「独立行政法人会計基準」及び「独立行政法人会計基準注解」第 129 に規定する公益法人等（理事のうち当法人 OB が占める割合が3分の1以上等）